

十和田市生まれ。南小学校4年生。小学1年生から相撲を始める。小学校の相撲部と市内の相撲教室に所属し、日々練習に励んでいる。2年生から大会に出場して以来数々の大会で入賞。好きな食べ物は焼き肉。



▲コーチに果敢に挑む。「立ち合いを速くして次に臨みたい」と話す

◀わんぱく相撲全国大会で獲得したトロフィーを持ってにっこり。普段はこの笑顔で人気者

7月31日、東京両国国技館で開催されたわんぱく相撲全国大会において、全国の強豪たちを破り、4年生の部で見事優勝。わんぱく横綱となった。自身の得意技である押し出しが光った。「優勝しか見えていなかった。緊張はなく、取り組みは楽しかった」と、振り返る。苦戦したのは5回戦。自分よりもひと回り大きい相手だった。「相手が思ったより大きくてびっくりした。でも勝つと思った」力強い思いの通り、寄り切りで勝ち上がった。

下村くんは、身長150cm、体重95kgの巨体の持ち主。学校ではムードメーカー的存在で、下村くんのまわりにはいつも友だちがいる。「普段は友だちと野球をしたりして遊んでいる。給食は少し足りないかも」と、はにかみ笑う。

1年生の秋頃に柔道から相撲に転身。始めた当初は、コーチらの言うことをなかなか聞かなかったという。しかし、大会に出場し勝つ喜びを覚えてから、練習のときの目が変わった。「練習はきついけど、嫌だとは思わない。相撲が好きだから」どんな相手でも物おじせずに挑んでいく。立ち合いのときの目に普段の下村くんの穏やかさはない。ひとりの力士の目になる。

「これからも相撲を続けて、大会ではずっと優勝したい」勝利への意志は固い。「将来は、生徒をみんな強く育てられるような相撲の先生になりたい」と、力強く夢を語った。



優勝しか見えていない 強い想いを抱くちびっこ力士

◀練習になると一変。相手を見据える強い視線。気迫が伝わってくる

